

Health Care Economics

大学院特別講義のお知らせ

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記の通り特別講義を開催いたしますのでご案内申し上げます。

記

演題：How to Review a Research Article ～「ナース・プラクティショナーと皮膚科医のケアの質の比較」についての論文を読む

演者：東京女子医科大学看護学部 成人看護学 准教授
近藤 暁子 先生

日時：平成24年7月30日(月) 18:00 - 20:00

場所：医療経済学分野 (M&D タワー 6階)

内容：

米国では上級実践看護師として、ナース・プラクティショナー (NP) や専門看護師 (Clinical Nurse Specialist) が19世紀半ばから活躍している。アメリカ NP 学会によると、NP は「プライマリケアもしくは専門的な医療を外来、病院、または介護施設で提供する有資格者であり、独立した医療提供者である」と定義されている。

これに対して、わが国の厚生労働省は、高い能力と実務経験を持つ看護師に、医師の補助として高度な医療行為を認める「特定看護師 (仮称)」の導入を決めた。新制度では、特定看護師が行える「特定行為」を次のように定義した。5年以上の実務経験があり、8カ月～2年程度の専門研修を受け国家試験に合格し、認証を受けた特定看護師は、医師の大枠の指示の下、自主的な判断で「特定行為」を行うことを可能にする。特定看護師が実施可能な医療行為 (特定行為) は、床ずれで壊死した組織の切除や、脱水症状の際の点滴などが想定されているが、詳細は今後検討していくとのことである。厚生労働省は保健師助産師看護師法改正案を通常国会に提出し、早ければ平成25年度の開始を目指すという。

しかしながら、わが国では看護師による医療行為は医師と同等の質が提供されているという学会発表はあっても学術論文は見受けられない。果たして、両者のケアの質は同等なのか。本特別講義では、オランダにおけるアトピー性皮膚炎を有する小児患者に対する NP と皮膚科医のケアを比較した論文を素材に議論する。研究論文の系統的なクリティークの方法について説明しながらディスカッションを行うので事前に論文を読んでおいて欲しい。

担当講座：医療経済学分野 五十嵐 公
連絡先：宇野 聡 (内線 5931)
uno.hce@tmd.ac.jp